

第3回 匝瑳市食育推進協議会 会議録

会議の概要

開催日時	平成23年11月4日（金）13時00分から15時00分まで	
開催場所	匝瑳市民ふれあいセンター 1階 第1会議室	
出席者の氏名	委員	半田美智子、平山さとみ、大木すみ江、大木秀子、越川八代枝 渡邊悦徳、林暁男、南俊男、椿隆夫、小林正幸
	事務局	作佐部勝美（産業振興課 統括） 鈴木美穂（産業振興課 副主査）
欠席委員	福島俊之、小林淑子、伊橋清二、吉川昇	
議題	(1) 計画（案）について (2) 計画名称及び計画書表紙デザインについて (3) その他	
配付資料	会次第 資料 匝瑳市食育推進計画（素案）	

議事要旨

発言者	発言要旨
事務局	第3回 匝瑳市食育推進協議会 開会の挨拶
会長	挨拶。 議題（1）計画（案）について、事務局から。
事務局	資料 匝瑳市食育推進計画（案） 第1章 を基に説明。 性学もちについてだが、棒もちという言い方もある。大原幽学が性学を唱えていて、そこからついた名称だ。棒もちだけの方がわかりやすいか。
会長	私は性学もちと言っているが、知らない人は棒もちと言っている。いわれのあるものなので、きちんと表記すべきだ。
委員	棒ちは、うるちで作る所謂しんこ餅のことか。それは他にもあるので、取り上げたいのであれば分けて両方表記したほうがいい。郷土料理は他にもあるから「挙げなくてもいいのでは」というのなら、性学もちで挙げておけばいいと思う。個人的には棒ちはこの郷土料理ではないと思う。
委員	では、「性学（棒）もち」という表記はどうか。
会長	しんこ餅とは違う。棒ちは米を蒸かしてつくものだ。しんこ餅は粉をひいて、お湯で練ってにぎってふかして、それをつく。
委員	性学もちを料理とかで出している所はあるのか。
会長	ふれあいパークで売っている。今は棒もちとして売っているが、本当の名前は性学もちだ。しんこ餅とは違う。

発言者	発言要旨
委員	性学もちと計画書に載せたときに、みんな「食べたことない」と思うだろう。みんな知っているかどうか、食べたことがあるかどうか、出すところがあるかどうか、それらをみんなが知っているかどうかだと思ふ。
会長	ほとんどの人が知らないのではないか。
委員	郷土料理という言葉に合うかということか。
委員	みんなが知らなくてもいい。知るきっかけになればいい。棒もちとは形状だけの問題なので性学もちでいいのではないか。 郷土料理か特産品かという問題については、これは素材なので特産品でいいのではないか。
会長	性学もちとは、昔の非常食だった。
委員	ということは、昔ながらのものなので、資料に出すことで、ふれあいパークとかで体験できたり、小料理屋で出すようにしたりすると、みんなに知られる機会が出てくるのではないか。
会長	棒もちとは、おつゆに入れて食べるものだ。本当に素朴なものだ。 しんこ餅は餅ではない。もち米から作っていない。米を粉にしたものをしんこと言っている。
委員	性学もちとは県にも資料として出している。レシピもあるのでいわれも含めて出すことはできる。
委員	海草は料理のほうだから郷土料理でいいと思う。だから、もちを汁の中に入れて料理名とかがあるならいいが、性学もちそのものなら特産品に入れた方がいい。
会長	では、特産品の方に入れるということによいか。
委員	「性学」の漢字は合っているか。何か違和感があるが。
事務局	大原幽学の独自の道徳が「性学」と言われている。
会長	性学もちを特産品にして、「性学（棒）もち」という表記にする。
事務局	計画書 第2章・3章を基に説明。
会長	3章までで何かあるか。
委員	1章の5に匝瑳市の食をめぐる現状、2章に調査結果が来るので、これらは同じ現状を示すものなので、一つにまとめたほうがいいのではないか。まとめるのが大変であればこのままでもよいが。
委員	このままでいいのではないか。
会長	ではこのままでいく。
事務局	計画書 第4章 基本施策1を基に説明。
会長	基本施策1について何かあるか。
委員	「取り組み」と「対象」がひとつになっていて、わかりにくかった。網掛けが2つあるので、別な取り組みかと思った。

発言者	発言要旨
会長	わかりやすくするために、ひとつの取り組みの中で色分けしていると思うが。
委員	27 ページの一番目の取り組みは 26 ページの施策の展開（１）に対応しているのか。
事務局	施策の展開と主な取り組みが必ずしも連動しているわけではない。
事務局	今、事務局から申し上げたように基本的には連動していなく、施策の展開が 3 項目でも、主な取り組みが 5 項目あったりする。また、施策の展開が 4 項目あって、主な取り組みが 4 項目あったとしても、必ずしも施策の展開の 4 項目に連動しているわけではない。確かにわかりにくい部分はあるので、修正したいと思っている。
委員	主な取り組みの下段の枠の網を取ってはどうか。あとは文字の大きさを調整するとか。
事務局	そのように修正する。
会長	では次にすすめる。
事務局	計画書 第 4 章 基本施策 2 を基に説明。
会長	基本施策 2 について何かあるか。
委員	健康管理課として、基本施策 2 について歯の関係を追加したが、そのために「ライフステージにおける食育の取り組み」が歯科健診のみのイメージにもみえてしまうので、他の事業もあるので調整したい。「関連する事業」も予算書の事業名になっている。
委員	配食サービスは市ではどのように考えているのか。
委員	ちょっとわからないが。
事務局	やっているが、人によって違うし、市とは関係なく個人でやっている人もいる。
会長	私が保健推進員の時に独居老人を対象に行った。
委員	地区社協のなかで配食サービスを行っていて、保健推進委員がそれを担っている。
委員	配食サービスは新規事業かと思ったが、すでに動いているわけか。であれば、給食センターとの絡みはどのようにしてるのか。給食センターにはノウハウがあると思うが。
会長	給食センターとは一切絡んでいない事業だ。
委員	そうすると、単に栄養面だけで配食をするだけでは問題だと思われる。これを民間に丸投げするのであれば、補助をする。そうすれば利用者の QOL という点でもいいと思われる。
委員	「栄養改善が必要な」という文言は具体的に何を指すのか不明瞭だ。

発言者	発言要旨
委員	<p>配食サービスは、地区社協が保健推進委員を通じて行っているものと、高齢者支援課が行っている事業がある。そのために、所管課が高齢者支援課になっていると思われる。</p> <p>給食センターが直に関わってということはないと思われる。</p>
委員	<p>配食サービスと給食センターとの関係はわからないが、栄養バランスの事例については給食センターが何千例と持っている。そういうノウハウを最大限に利用することが、一番いいのではないか。</p> <p>民間で行うなら、補助金を出して支援するというのがいいと思われる。</p>
会長	<p>都内のある配食サービス業者では、「採算が合う」と言っていたが、本市では採算が合うまでの対象となる人数はいないだろう。</p>
委員	<p>今は民生委員と一緒に行って、独居老人には民生委員が届けていることが多い。栄養管理は栄養士の指導のもと、カロリー計算等はしている。</p>
会長	<p>この問題は重要だ。これから大事になってくる。</p> <p>ヤクルト飲料の配達はしているか。</p>
委員	<p>今はやっていない。しかし、それに近い事業はしているはずだ。</p>
委員	<p>ここの基本施策については、再度専門部会の方で揉んで再提出するかたちに事務局のほうではどうか。</p>
事務局	<p>そのようにさせていただく。</p>
事務局	<p>計画書 第4章 基本施策3を基に説明。</p>
会長	<p>基本施策3について何かあるか。</p>
委員	<p>バイキング給食についてはわかったが、弁当の日については、銚子市が1のつく日に弁当の日を設けている。そのようなイメージでよいか。</p>
事務局	<p>そうだ。</p>
委員	<p>だとすると、学校には両親と暮らしていない子ども等もいるのが心配だ。以前勤務していた学校では、手作り弁当ではなくコンビニ弁当を持ってきた子どももいた。</p>
委員	<p>子どもが幼稚園に通っているときに、月に1回お弁当の日というのがあった。正直給食のほうが助かる。小学校でも中学校でも、コンビニ弁当を買ってくる子も多いので、〇〇委員の懸念もわかる。ただ、各家庭の考え方でそういう子どももでてくる。</p>
委員	<p>中学生になると、弁当の日でも「要らない」と言われることもある。</p>
会長	<p>お弁当の日は、今はいろいろ事業があるので難しいかと思う。</p>

発言者	発言要旨
委員	<p>難しい問題だというのはあるが、手作り弁当とかコンビニ弁当とか、そこに食育そのものの問題があると思う。何もやらないと進まないというのもあるが、食育は子どもだけではなく大人も対象に教育しないといけない。食育の原点から考えると、お弁当をやめて給食にするというのはだめだろう。そこをどう考えるかだ。</p> <p>この文章の中で「手作り弁当」とは書いていないので、コンビニ弁当でもいい。それぞれの家庭の考え方だからコンビニ弁当でもいい。ただ、コンビニ弁当を食べていくうちに「コンビニ弁当で何が問題か」という問題も出てくる。そういうのを次のステップとして取り上げていくと、親御さんも真剣に考えていくのではないか。それが食育ではないか。</p> <p>それこそ、食パンにトマトを挟んで食べても、本人が「昼食だ」と思えればいいのではないか。</p>
委員	<p>たしかにそうだが、教師サイドとしては子どもの心を考えると周囲のフォローをしていけばいいかと思われる。特に小さい子どもの場合は、ある程度成長して、家の事情がわかるようになっていけばいいが。</p>
会長	<p>家庭の味が一番いいので、一品でもあるといい。家庭への食育が一番必要だ。</p>
委員	<p>要望だが、学校での調理実習を入れていただきたい。うちではかなりやっているのですが、計画に入れていただきたい。うちの担当が食育ボランティアとか手配してやっているのですが、少し分担をお願いしたい。</p>
委員	<p>各学校には食に関する指導の全体の計画がある。家庭科には調理実習が当然ある。家庭教育学級などで市の方から栄養士や保健推進委員が来てもらって行っている。</p>
会長	<p>あまり負担にならない程度に、食育ボランティアや保健推進委員と協同で何かできるようにしていただきたい。</p>
委員	<p>農業体験・漁業体験の主な取り組みが見当たらない。</p>
会長	<p>農業体験については、吉田小学校ではとなりに畑があるので、児童等が行っている。</p>
委員	<p>各学校で取り組みを行っていると思うので、付け加えたほうがいい。また、漁業体験というのはあるのか。</p>
事務局	<p>市内ではなくなったようだが、稚魚の放流がある。</p>
事務局	<p>栗山漁港の関係で、うなぎと鯉の放流をしている。近くの小学校から行っていくことが、漁業体験の入り口となる。</p>
委員	<p>釣ってさばいて食べるころまではいかないか。</p>
事務局	<p>次のステップとしてはありえるだろう。</p>
林委員	<p>匝瑳市では生産漁業というのは少ない。</p>

発言者	発言要旨
委員	港がないだけで船舶はある。ただ、それに乗せて釣りに行くのは難しいだろう。
委員	そうなると、市内のビジネスとしては漁業の加工が大きいのではないか。加工体験まで拡大して漁業体験というのであれば、ひとつの方法としてあるのではないか。
事務局	野菜の方で大きな加工場があるので、大きなくくりで考えれば、加工体験も漁業体験のひとつとして挙げられるだろう。
事務局	計画書 第4章 基本施策4を基に説明。
会長	基本施策4について何かあるか。 匝瑳市で季節を取り入れた食というと、大浦ごぼうやなめろうだろう。大浦ごぼうは販路がないから辞める人がいるので、販路を作るのも食育だ。
事務局	計画書 第4章 基本施策5を基に説明。
会長	基本施策5について何かあるか。
委員	事業が漠然と並んでいるが、食生活改善推進事業は子どもや男性等対象者別に教室を開催している。生活習慣病の予防のための健康づくりとして位置づけている。わんぱくキッズや親子料理教室等だ。また、保健推進委員に健康づくり教室を開催して、健康づくりのための食を学んでもらったりもしている。市町村保健対策事業は、人材育成の支援を行っていて、保健推進委員を養成するための教室を開催している。 食育ボランティアの所管も健康管理課と捉えられそうなので、所管課の表記をどうするか。
事務局	食育ボランティアについては、産業振興課になるが、部会で検討させていただく。
委員	資料の見方だが、施策の展開と主な取り組みが必ずしもリンクしていないのが見づらいので、リンクさせた方がいいかと思う。
事務局	施策の展開は、計画を作っている中で必ずしもそれに該当する事業がない場合もある。そういう理由から「主な取り組み」という表現をさせていただいている。そのため、1番はこの取り組み、2番はこの取り組み、という表現ができないので番号をつけないでいる。 基本施策5でいうと、「5 『食』と健康に関する知識の普及」ということであれば、主な事業として3つの取り組みが考えられるということで、3つ取り上げているというようにご理解いただきたい。
委員	メールマガジンの発行、ホームページの充実、携帯電話サイトの構築とあるが、私はこれらはすべて利用できない。紙ベースでも情報をいただきたい。

発言者	発言要旨
委員	発信する中身は一緒なので、基本は広報そうさだ。情報を流す媒体を増やしたただけだろう。
事務局	そうさだ。
事務局	計画書 第5章を基に説明。
会長	第5章について何かあるか。
委員	料理のレシピの提供だが、現状該当なしを「横棒 (-)」で表記するのではなく、「ゼロ (0)」のほうがわかりやすいのではないか。
委員	郷土料理や料理教室の開催は、「4 食文化や郷土料理の伝承」に入るのではないか。また、そうなった場合、担当課は生涯学習課になるのではないか。
会長	事務局のほうで調整していただきたい。
委員	前の案では4に入っていた。
事務局	4に修正させていただく。
委員	「給食への市内農産物の導入」で八日市場と野菜で品目が違うということは、それぞれの給食センターで独自にやっていることになる。市民病院の給食では地産地消をほとんどしていない。委託の悪い例だ。品目ではなく、全体の食材の割合で表記することが多いし、品目では品目が際限なく増えてしまうのではないか。なので、割合表記にして、全体の7割とか8割という方がいいのではないか。
事務局	割合表記も考えていたが、栄養士との相談のなかで、パーセンテージで表記すると、何をもとにパーセンテージになるのか、金額なのか量なのかとか、切り口によって変わってくるという話があった。
委員	そこは各担当で揉んでいただきたい。調味料とかは別にして、主なものは主菜と副菜になるだろう。一番問題なのは、できあいのものだ。
会長	これについては事務局サイドで検討していただきたい。
事務局	計画書 資料編を基に説明。
会長	それでは素案全体として、これでよいか。
	(一同承認)
会長	議題(2) 計画名称及び計画書表紙デザインについて、事務局から。
事務局	計画名称は「匠瑤市食育推進計画」でいきたい。計画書表紙デザインについては、事務局に一任していただいてよいか。
	(一同承認)
会長	議題(3) その他について、事務局から。
事務局	本日頂戴した意見を専門部会で検討する。その上で再度提示する。
会長	議題は以上となる。 ありがとうございました。
	閉会